

「遠江総合高校マッチングフェスタ」で自衛隊の魅力を紹介

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は2月3日（水）、森町総合体育館森アリーナ（周智郡森町）で行われた「遠江総合高校マッチングフェスタ」に参加した。

これは、静岡県立遠江総合高等学校（同町）が主催したもので、生徒に地元企業や上級学校の魅力などを直接紹介し、職業や進学に対する意識を高め、今後の進路選択に指針を示すため行われた。県内から学校・企業合わせて81組が集まり、袋井地域事務所からは広報官の山下亮3等海曹が参加した。

参加者は全員マスクと手袋を着用し、各ブースは透明なビニールシートで仕切りを作り、会場内は換気を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策がなされた。

当日は、200人を超える2年生がそれぞれ興味のあるブースを訪問。自衛隊ブースに訪れた生徒に自衛隊に対するイメージを聞いたところ、「体力があり、しっかりしている」「訓練が厳しい。ほふく前進や戦闘訓練以外にどういったことをしているのか知りたい」といった声があり、山下3曹が「厳しいこともあるが、それは任務を



完遂するために必要なこと。困難は仲間とともに乗り越えてきた」と自らの経験を話し、また、資料を使い、自衛隊には多様な職種が存在し、多くの人に適する仕事があることなどを説明した。

説明を聞いた生徒は「警察官を目指していますが、説明を聞いて自衛隊の中にも警察に似た仕事があることを知り、興味が湧きました」と話していた。

静岡地本は、今後も企業説明会等に積極的に参加し、自衛隊に対する認識と理解の向上に努めていく。

常葉大学で防災の集中講義

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は2月5日（金）、常葉大学草薙キャンパス（静岡市）で行われた集中講義「防災行政論」に講師として参加した。

2月1日（月）から行われたこの講義は、同大学が社会環境学部において防災を学ぶ学生に対し、県・消防・警察・自衛隊が平時・有事においてどのような活動を行っているかを理解してもらい、卒業後の進路選定の資とさせるため各機関から講師を招き実施したものの。自衛隊は最終日の5日に招かれた。

まず、杉谷本部長が「自衛隊の行う災害派遣」と題して、自衛隊の任務・組織、災害派遣や新型コロナウイルス感染症への対応、災害救助犬についてなど、自衛隊全体の説明を行った。

その後、陸上自衛隊の災害派遣について第34普通科連隊（御殿場市）の資料を用いて静岡地本の早川勉一等陸尉が、航空自衛隊の災害派遣について浜松救難隊（浜松市）の野上恵司一等空尉がそれぞれ講義を行った。



海上自衛隊については、横須賀地方総監部（横須賀市）から講師を招く予定であったが、緊急事態宣言の影響で参加が見送られたため、代わりとして提供された海自の活動をまとめた動画の視聴を実施した。

学生たちは、各講師の話に熱心に耳を傾け、写真や動画などを興味深そうな様子で見たり、真剣にメモを取るなどしていた。

静岡地本は、今後も学校と協力し、学生たちに自衛隊の任務や活動に対し理解を深めてもらい、将来の進路選定の候補に繋がる広報活動を実施していく。